

高鷲の文化財

令和2年11月9日

高鷲文化財保護協会

NO38

懐かしい昭和時代の生活！

古老からの聞き取り

本年度はコロナ禍の影響で、理事会、総会、研修旅行、奉仕活動、市内ミニ研修や4月に予定していた岐阜県博物館高鷲開拓記念館移動展も延期となるなど、すべてが中止・延期となり閉塞感が漂う文化財保護協会の活動でしたが、5月になると県博物館の方から移動展示を開催するとの知らせがあり、開催したことはNO36でお知らせしたところであります。

令和2年10月30日に「古老に聞く」を久しぶりに高鷲文化財保護協会行事として行うことができました。

この行事は先日、「高鷲拝殿踊り研究会」が古老の皆さんからの「拝殿踊り」についてのお話を伺ったことに触発されて、高鷲の昔の生活の様子や民俗、災害こと、遊びのこと、年中行事など懐かしい昭和時代ことを高鷲の若者に残していこうと役員で話し合い、今回の行事を開催することになりました。この人選は事務局で行い、聞き取りは役員で行いましたので、その主な部分のみを箇条書きでお知らせします。

古老の紹介：麦島博昭 氏、山川清至 氏、三島道雄 氏、清水あや子 氏

司会進行：上村 強 氏（事務局）、記録・顧問：馬淵旻修 氏



左から山川、清水、三島、麦島の各氏

司会者：現在は、昔の景色とか家の状態が今とだいぶ違ってまいりますのでそこら辺からお話し願えれば、さらに「夜這い」について昔は行われていたそうですが、今の若者は知りません、そのようなことがあったことを若者に伝えていくことも私たちの使命だと思っています。なお、このテーマにとらわれませんので、自由にお話してください。

古老：今と昔とでは気質が違う。今の世の中は女が いかん。
：各家には伝統があり、しつけがあり、それによ って子供も違う。
：昔は粗食に慣れていたし、マスの頭がごちそうで食した。谷水を飲料水として使っていた。

-
- ：隔離病舎はH I さんの家の近くにあり、昭和20年代には廃材を利用して正ヶ洞の公民館を建てた。
- ：大正11年ごろにはスペイン風邪が流行した。
- ：公会堂は浄勝寺の南に昭和30年代まであり、そこで地歌舞伎を行った。
- ：穴洞の口番所はサークルkの横にあり、昭和20年の終戦の話をそこで聞いた。
- ：青年団は向鷲見と中洞が中心であった。
- ：青年団を中心に楽団を結成していた。
-

- : 穴洞の火事について
- : 正ヶ洞の火事についてはKSさんの「おりと正ヶ洞」に載っている。
- : 岩高の火事の話
-
- : Kさんの話
- : YKさんの話
- : SKさん、知事であったMYさんの話
-
- : 高鷲小学校の場所は往明寺のところからYMさん宅あたりへ、それから明治41年現在地に移動する。
- : 小学校の傍にタンク（水槽）があり、そのタンクは向鷲見神社の水で、水神さんがあった。
- : 大鷲白山神社について
- : 終戦当時の10円札（写真）についての話
- : 古い写真等は大切に保管してほしい

化財的価値があり、大。



終戦直後の10円札コピー

司会者：時間が来ましたので、本日はありがとうございました。次回は11月中にテーマを「災害」「被害」等を中心に開きたいと思います。本日はありがとうございました。

.....

お知らせ

11月17日朝8時30分から、高鷲開拓記念館の掃除・資料整理と展示替えを行います。